

## 「皇室制度に関する有識者ヒアリングを踏まえた論点整理」（平成24年10月5日 内閣官房）の概要

### 1. 問題の所在

女性皇族が、今後婚姻を機に、順次皇籍を離脱することにより皇族数が減少し、皇室の御活動を維持することが困難になる事態が生じることが懸念される。

### 2. 検討に当たっての基本的な視点

検討に当たっては、以下のような視点に留意し、国民の理解と支持を得られるようにすることが重要。

- ① 皇室の伝統を踏まえながら、これまで形づくられてきた象徴天皇制度に整合的なものとする
- ② 皇位継承制度の在り方の問題に影響しないものであること
- ③ 皇室の適正な規模と国民負担への考慮
- ④ 女性皇族の御意思の反映と婚姻環境への配慮

### 3. 具体的な方策

有識者ヒアリングで示された具体的な提案について、以下のとおり整理し、検討。

- (I) 女性皇族が婚姻後も皇族の身分を保持することを可能とする案
  - (I-A案) 配偶者や子に皇族の身分を付与する案
  - (I-B案) 配偶者や子に皇族の身分を付与しない案
- (II) 女性皇族に皇籍離脱後も皇室の御活動を支援していただくことを可能とする案

#### (まとめ)

象徴天皇制度の下で、皇族数の減少にも一定の歯止めをかけ、皇室の御活動の維持を確かなものとするためには、I案について検討を進めるべきであるが、I-A案、I-B案それぞれ長所、短所があり、更なる検討が必要。また、いわゆる尊称保持案は実施困難だが、II案についても、併せて検討を進めることが必要。